

令和 5 年 6 月 26 日現在

機関番号：72601

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2020～2022

課題番号：20H01193

研究課題名（和文）人類宗教史における「地母神」概念の総合的、実証的、批判的検証

研究課題名（英文）Empirical Re-Examinations of the Concept 'Mother Earth' in the History of Religion

研究代表者

月本 昭男 (Tsukimoto, Akio)

(財)古代オリエント博物館・研究部・館長

研究者番号：10147928

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 10,900,000円

研究成果の概要（和文）：長らく「地母神」信仰は人類最古の宗教形態とみなされてきた。乳房や女性性器を強調した先史時代の裸体女性彫刻・土偶がその証拠されてきた。だが、それらすべては高さ10cm前後であり、片手に入るサイズであり、祀る対象とは考えにくい。加えて、人類最古の文明である古代メソポタミアにおいて、神が人間の姿で表彰されはじめるのは、前2800年ころであり、それ以前に神が人間の姿で表彰されることはない。以上の事実は、「地母神」信仰の根拠がじつに薄弱であったことを示している。

研究成果の学術的意義や社会的意義

上に述べたように、19世紀中葉以来、人類最古の宗教形態とみなされてきた「地母神」信仰は、その証拠なるものが正しい解釈に基づいていないことが明らかになった。したがって、「地母神」概念の意義は再考されねばならず、それをもって人類宗教史ひいては精神史を語ることは適切ではない。その点を公けにしてゆくことに学術的意義があると認められる。

研究成果の概要（英文）：The belief in "the Mother Goddess" has been generally recognized as the oldest phenomenon of human religion and evidenced by the prehistoric female figures in which the breasts and sexual organ are very much exaggerated. However, the size of all the figures are so small (about 10cm high) that one can hold them in a hand. They could hardly be the objects of worshipping. Adding to that, in ancient Mesopotamia where the oldest human civilization was developed, the deity was represented in human form in the Early Dynastic period of Sumer (2900-2400 BCE) and after. Before that period the deity was not expressed in a human figure. The facts mentioned here should suggest that the identification of the prehistoric naked female figures and "the Mother Goddess" is very dubious

研究分野：宗教史学

キーワード：地母神 先史時代 人類宗教 Anthropomorphism

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

宗教学において、20世紀末葉から宗教起源論は影を潜めたといっただけで、なお前提にされている概念のひとつに「地母神」信仰がある。それは、人類は母権制社会を経験してきた、といった前提に基づく。バハーフ『母権論』(1861年)、モルガン『古代社会』(1877年)、エンゲルス『家族・私有財産及び国家の起源』(1884年)などが20世紀さらには21世紀になってなお大きな影響を与え続けているからである。そして、神話学では豊穡を司る女神が、考古学では乳房や女性器が強調された古代の彫刻や土偶が「……のヴィーナス」と呼ばれ、「地母神」と結びつけられてきた。それがさらにユング心理学の「グレート・マザー」概念とも結びつけられた。

2. 研究の目的

本研究主たる目的は、上にも述べたように、「地母神」と称される考古資料や神話に登場する女神を、人類学、神話学、考古学、心理学の分野の研究者の協力をえて、総合的、実証的に検討を加え、「地母神」概念が古代宗教を分析するうえで学術的に有効な概念かどうかを再検討することにおかれた。結果的に、それは神概念の起源を問い直すことにもなるだろう。

3. 研究の方法

本研究は、

人類学、考古学の最新の研究成果に基づき、先史社会の生産形態、農耕を経済基盤として発達した古代都市社会の構造を明らかにし、そうした背景に照らして、「地母神」と呼ばれてきた、女性を表現した先史時代の彫刻や土偶を実地検分したうえで、その機能と意味を新たに探求する。

神話学、文献学に基づき、古代の文献・図像資料にみられる女神像を実証的に探究する。古代の文献・図像資料を収蔵している海外の研究機関および博物館で資料調査を実施する。こうして得られた「地母神」をめぐる諸分野の知見を総合し、本研究の主たる目的である「地母神」概念の妥当性に迫ってゆく。

4. 研究成果

三年間にわたる研究の成果を一言で表現すれば、人類宗教史において、これまで疑問を差し挟むことなく使用されてきた「地母神」概念は学術上の妥当性に欠けることが明らかになった、といっただけで、以下、そのような結論にいたった主な理由を掲げる。

人類の家族システムに関する最新の研究によれば、人類最古の家族形態は母権制でなく、いわゆる父権制でもありえず、むしろ「核家族」を基本にしていた可能性がきわめて高い(E・トッド『家族システムの起源 I』上・下、2016)。

人類が農耕を開始したのは前 9000 年ほど前の西アジアであったが、「地母神」と解されてきた乳房や性器を強調する女性像(「……のヴィーナス」)はそれよりはるか以前、人類が農耕以前の採集社会を営んでいた4～2万年前に年代づけられる。

それらの女性像は、主に、ヨーロッパ大陸で発見されており、発表されているものは20点余に及ぶが、それらはすべて片手でつかめる大きさである。最古の「ホーレ・フェルスのヴィーナス」(右写真)は僅か6cm、そのほかでも、11cmを超える事例は見当たらない。つまり、先史時代における崇拝の対象としては小さすぎる。



古代メソポタミアにおいて、「地母神」とみなされてきたのはシュメル時代のイナンナ女神

であり、アッシリア・バビロニアのイシュタル女神である。この女神は前 2000 年以降の神話や祭儀にしばしば登場する。だが、女性の姿で描かれるのは、シュメル初期王朝第 II 期（前 2700 年頃）以降である。それ以前には、そもそも神々が人間の姿を取る「人型神観」（anthropomorphism）は観察されない。神々はむしろ様々な象徴物で表象され、イナンナ女神は前 3200 年頃の石製壺の彫刻（右写真）にみられるように、葦を束ねた柱（中央の女性神官の背後の 2 本の柱）によっ



て表わされた。メソポタミアの諸遺跡からは、イナンナ/イシュタル女神への祈りを記したシュメル語、アッカド語の楔形文字書板が少なからず発見されている。だが、そこに豊穡祈願はほとんどみられない。

こうした事実を照らし、本研究の成果として、これまで自明視されてきた「地母神」という概念をもって、先史時代および古代文明期の宗教を論ずることはできないこと、むしろ、「地母神」は一般宗教史を語る概念装置としては放棄すべきであることが明らかになった、と思われる。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 月本昭男	4. 巻 38
2. 論文標題 リム・シン第3年の「敷地付家屋」売買契約文書	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 古代オリエント博物館紀要	6. 最初と最後の頁 22-31
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 津本 英利 (Hidetoshi Tsumoto)	4. 巻 1
2. 論文標題 Two small settlements in the shadow of the expansion of the Assyrian Empire: Tell Ali al-Hajj and Tell Mastuma in Syria	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 S. Hasegawa and K. Radner (eds.), The Reach of the Assyrian and Babylonian Empires. Case studies in Eastern and Western Peripheries	6. 最初と最後の頁 137-148
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 田澤 恵子
2. 発表標題 東地中海地域における女神信仰の系譜研究
3. 学会等名 古代ジェンダー研究会（Zoom開催）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Keiko Tazawa
2. 発表標題 Development of a learning programme based on the similarity between Egyptian hieroglyphs and Kanji
3. 学会等名 CIPEG Annual Meeting 2020（国際学会）
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 月本昭男	4. 発行年 2021年
2. 出版社 日本キリスト教団出版局	5. 総ページ数 198
3. 書名 見えない神を信ずる	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	高橋 原 (Takahashi Hara) (30451777)	東北大学・文学研究科・教授 (11301)	
研究分担者	田澤 恵子 (Tazawa Keiko) (30598587)	(財)古代オリエント博物館・研究部・研究員 (72601)	
研究分担者	津本 英利 (Tsumoto Hidetoshi) (40553045)	(財)古代オリエント博物館・研究部・研究員 (72601)	
研究分担者	平藤 喜久子 (Hirafuji Kikuko) (50384003)	國學院大學・神道文化学部・教授 (32614)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------